

ベストクラス選定理由書

作成者：山中一英 掛川淳一 杉浦加奈 百溪拓人 三浦卓也

科目名称 障害児医学特論（昼間クラス）		（担当教員名：高野美由紀）
課 程	：大学院（修士）	開講時期
授業形態	：講義	：31人以上
インタビュー対象教員名 高野美由紀 （実施日時：7月31日（火）10:40～11:25 実施場所：総合研究棟3階中会議室）		
インタビュー対象受講者名 大高研吾 津崎かおり （実施日時：7月31日（火）11:25～12:10 実施場所：総合研究棟3階中会議室）		
<p>選定理由</p> <p>本授業では、「医学的診断」「医学的治療」「教育と保健・医療との連携」という3つのテーマで医学情報が整理され、それをもとに障害や障害のある児者に対する理解を深めるとともに、障害のある児者の自立やQOLを視野に、問題の所在の確認と議論を重ねながら、自ら可能な支援を能動的に計画していくことのできる力量の獲得が企図されている。授業評価での自由記述ならびに教員と受講者へのインタビュー調査から、このねらいを達成すべく効果的な取組が実践され、受講者もそこに積極的に関与した様子がうかがえた。</p> <p>1. 課題設定のねらいと教員の思い</p> <p>本授業の特色は、受講者の主体的な学びを担保している点にあると考えられた。本授業は主に次のように展開する。まず、教員が課題を提示する。そして、その課題について受講者個々が調べ学習を行い、レポートを作成する。そのうえで、作成したレポートを持ち寄り、グループに分かれてディスカッションを行う。このような展開によって、受講者は「自分の考えを持ちつつ、他者の考えを取り入れる」ことが可能となり、本授業が受講者にとって「主体的な学びの場」として機能することになったと考えられた。</p> <p>教員には、「教師は学校にいる間の子どもだけを見ている気がする。子どもや親子の歴史は見えにくいですが、それを紐解くのが医学である。この授業をきっかけに教師の視野が広がってほしい」という思いがあったが、その思いが首尾よく反映され結実した授業であると判断された。</p> <p>2. 受講者の課題への関与と学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習、レポート作成、ディスカッションという授業の流れがわかりやすく取り組みやすかった ・受け身で知識を習得するのではなく、学生自身が調べ、考え、意見を交流させる場が設けられており、これが本当の「学び合い」だとあらためて気づくことができた ・答えのないテーマについて様々な人々と意見を出し合うことで、「ものごとの見方・考え方」についてあらためて考えることができた <p>受講者によるこれらの語りは、本授業が受講者に積極的な関与と深い学びをもたらしたことの証左であると考えられた。</p> <p>また、学校現場と関係ないのではないかと思っていたが、目の前の子どもだけを見るのではなく育ててきた保護者の気持ちや親子の歴史についても考えるようになったという受講者の語りは、前記した教員の思いと整合するものであり、教員の思いが受講者にたしかに伝わっていることを物語るものであろう。</p> <p>教員ならびに受講者へのインタビューから、教員の受講者を思う気持ちと受講者の教員に対する尊敬の気持ちが強く感じられ、両者が協働しながら授業を作り上げている様子が十分にうかがえた。</p> <p>以上のことから、本授業を平成29年度「ベストクラス」の候補として推薦する。</p>		